

セメントで攻めんと！ チル(Chill)な津久見の新たな観光フェース

大分大学 経済学部 朝美ゼミ

1. 問題点:

津久見市は、大分県の東海岸に位置する市である。県内では最も人口が少ない市であるが、豊かな海と閑静な島々、そしてセメントなどの産業が盛んである。一村一品商品では、保戸島のマグロ、津あじ・津さば、清見ミカンなどが一般的に知られている。観光資源としては、うみたま体験パークつくみイルカ島、四浦展望台、つくみん公園、花火大会、河津桜などがあり、観光の目玉としてこれらの資源をHPの活用やSNSの展開などを行ってきた。しかし、「大分の観光や遊び」といったものの中で、津久見市はヒットしない場所であることが分かった。そこであらたに津久見市の大きな産業である「セメント」産業に学生が目を向け、新たな情報発信を始めた。

2. 実践したこと

2-1 事前現地調査



実際に津久見市へ出かけ自分たちの津久見市を歩き、観光協会の方から意見を伺ったり、市民と話してみる。



つくみイルカ島にて観光体験やイルカ島の観光客についてお話を伺う



観光資源であるモイカとマグロを自分たちでも食べてみてインスタグラム等でアピールする作戦を立て

2-2 大学での取り組み・外部への情報発信



セメントを知ってもらうために、「セメントくん」を制作。オリジナルつくみん兄妹キャラクター作成



セメントくん

つくみん



tukumirunabi
つくみ市に発信する「グルメ」
発信担当：フクロー16人、フクロー18人
「ようこそ観光客へ」
「山・川・海」が大好きなつくみ。大分県津久見市の観光アカウントです。
最新のスポットや旬の情報をゆる〜と発信中！
フォロー@thiko_hok, youkuu, tukumirunabi



初年度は、大分大学の学生に「津久見を知ってもらう」という目標で学園祭を中心に 大分大学朝美ゼミのInstagram「tukumirunabi」つくみるナビ〜大分×旅×グルメ〜を作成、同時に x(旧ツイッター)も発信した。まずはセメントくんからヒントを得て、セメントアイス(黒ゴマ味)を販売した。合わせて津久見市にご協力を頂き、名産のぎょうつても 200 個完売した。保戸島の地域土産や津久見みかんジュース等を販売する中で、多くの学生に津久見を知ってもらうきっかけとなった。つくみんの着ぐるみも貸していただき、学園祭に訪れた子どもたちにも人気であった。「津久見を知ってもらう」という大きな目標はおおよそ達成できたが、今後どのように市民に、また県外に発信していくかが、今後の課題となった。オリジナルTシャツはつくみんをデザインしたものとイルカをデザインしたものを学生が作成した。また、観光客がわかりやすい、QRコードを利用した津久見オリジナルマップも作成したことは単年度の成果としてはよくできたと思われる。今後も継続して研究したい。